

平成23年3月28日（月）  
国土交通省関東地方整備局  
企 画 部

記者発表資料

関東地方整備局事業評価監視委員会（平成22年度第8回）の結果について

関東地方整備局では、平成23年3月11日に標記委員会を開催致しましたが、「東北地方太平洋沖地震」の発生により、審議を中断しておりました。その後、委員各位への意見照会を実施し、それに基づいて委員長により標記委員会の意見取りまとめがなされたので、その結果をお知らせします。

- ・河川事業 再評価 - - - - - 2件の継続を了承  
事後評価（報告） - - 2件
- ・道路事業 再評価 - - - - - 1件の継続を了承

なお、当日の議事及びその後の対応は、別紙のとおりです。

※配付資料については、関東地方整備局ホームページでご覧下さい。

関東地方整備局ホームページ(<http://www.ktr.mlit.go.jp/>) →募集・情報公開→公共事業の評価

URLダイレクト入力の場合 <http://www.ktr.mlit.go.jp/shihon/index00000018.html>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、神奈川建設記者会  
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ、東京都庁記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 TEL. 048-601-3151（代表）  
048-600-1329（夜間直通）

地方事業評価管理官	たなか よしあき 田中 良彰（内線2118）
企画部企画課課長補佐	いじま まさのり 飯島 正典（内線3153）

(別紙)

## 関東地方整備局事業評価監視委員会（平成22年度第8回）

### 委員会当日の議事概要及び審議中断による対応

1. 日 時 平成23年3月11日（金） 14:00～14:50頃  
※地震発生により、審議を中断(14:50頃)
2. 場 所 九段第3合同庁舎 11階 共用会議室2

### 3. 出席者

#### [委員長]

家田 仁（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授）

#### [委員]

岡部 義裕（東京商工会議所常務理事）

佐々木 淳（横浜国立大学大学院工学研究院教授）

清水 義彦（群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻教授）

堤 マサエ（山梨県立大学国際政策学部総合政策学科教授）

萩原 清子（仏教大学社会学部公共政策学科教授）

笠 京子（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授）

（敬称略、五十音順）

#### [関東地方整備局]

局長 下保、副局長 荒川、企画部長 金尾、建政部長 永森、  
河川部長 山田、道路部長 石川、営繕部長 遠藤、用地部長 深澤 他

#### 4. 委員会当日の議事概要

##### (1) 挨拶

- ・ 関東地方整備局長

##### (2) 審議

###### 1) 再評価対象事業の概要説明

- ・ 関東地方整備局の河川事業2件、道路事業1件の概要説明

###### 2) 審議

- ・ 特に重点的な審議を要する案件として、以下の3件が選定された。

- 荒川高規格堤防整備事業（川口地区）
- 荒川高規格堤防整備事業（小松川地区）
- 一般国道17号 綾戸バイパス

- ・ 事務局より再評価対応方針（原案）を説明。

※地震発生により、審議を中断。

#### 5. 審議中断後の対応

審議中断後、当日の出席委員の他、欠席委員を含めた全委員へ委員会資料（対応方針（原案））に対する意見照会を実施し、それに基づいて委員長により、本委員会の意見を以下のとおり取りまとめた。

##### (1) 再評価

（河川事業）

- 荒川高規格堤防整備事業（川口地区） ----- 継続
- 荒川高規格堤防整備事業（小松川地区） ----- 継続

（道路事業）

- 一般国道17号 綾戸バイパス ----- 継続

##### (2) その他（事後評価 報告事項）

（河川事業）

- 草木ダム水環境改善事業 ----- 報告了承

- 川治ダム貯水池水質保全事業 ----- 報告了承

「第19回関東地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、既に了承された事案である。上記2事業については、本委員会への報告が了承された。

##### (3) 付帯意見

- 1) 「荒川高規格堤防整備事業（川口地区）」及び「同事業（小松川地区）」については、事業が相当程度進捗しており残る事業はわずかであることから、平成24年度以降の事業方針についても早急に検討を進め決断すべきである。

- 2) 「一般国道17号 綾戸バイパス」については、防災面の効果について、従来の3便益評価とは異なる方式による評価を試行したところであるが、こうした防災効果の評価方法については、今後も慎重に検討を続けるべきである。